

主題聖句: イザヤ 1 章 17 節 善を行うことを学べ。公正を追い求め、虐げられた者を救い、孤児のために裁き、寡婦を弁護せよ。

<序>

「フラワーデモ」は、花を身につけて性暴力に抗議する社会運動である。性暴力事件への不当な無罪判決が相次いだことをきっかけに2019年3月に始まった。無罪判決批判、悲しむ女性、被害者心理に漬け込んだ性暴力は声を上げづらい。神戸では、2019年6月11日に初めて性被害の実体についての訴えが行われた。当初20人ほどが80人に増えた。デモに出てはじめて、家族、友達、学校で人には話せなかった体験を道行く人にマイクで語りかけた。その中には、神戸大学2年生の女性が7歳～14歳まで性暴力を校長である父親から受けていたという例もあった。職場の上司から性暴力にあったという30代の女性は「長い民事裁判が先日終結した。普通の生活に戻れると思ったが、今も当時を思い出して苦しい」と吐露した¹。LGBTの被害はさらに潜在化しやすく、実態の把握は容易ではない²。「悪因悪果 天網恢恢」と天に眼がある如く、「覆われているもので知られずに済むものはなく、隠されているもので知られずに済むものはない」のである(ルカ 12:2)。いずれも裁判の結果、無罪判決が続いたことから、法治国家とは思えない所業である。もはや家族団らんの楽しい共食はなかつただろうに。孤食で砂を噛むような苦しみは家、家族、運命共同体からの難民であったにちがいない。

戦時下、731部隊は全国から優秀な医師・研究者を集めた。戦時中、旧満州で石井四郎[1892-1959]、731部隊の責任者である軍医中將は、生体実験と細菌兵器を密かに開発し実戦で使用した。難民狩りに狂奔した。戦後犯罪に問われることなく大学の教授職などを歴任した³。

裁判が機能なくなると、「主よ、いつまで助けを求めて叫べばよいのですか。あなたは耳を傾けてくださらない。『暴虐だ』とあなたに叫んでいるのに あなたは救ってくださらない」と叫ぶ民に「まことに、あなたはご自分を隠される神」なのか(ハバクク 1:2)。「隠れたる神」(deus absconditus)と共に歩く私たちはどうすべきなのか(イザヤ 45:15)。今朝も家族、集落、国から虐げられた人々と、「共生」Life together, 「共苦」Share sufferings, 「苦縁」Relationship to share sufferings していく道をご一緒に考えてみたい。

¹ 『朝日新聞』(2021年2月11日付)。

² “LGBT[Lesbian(レズビアン 女性同性愛者), Gay(ゲイ 男性同性愛者), Bisexual(バイセクシュアル両性愛者), Transgender(トランスジェンダー 性別越境者)]やその他のセクシュアル・マイノリティ(少数者)に無知、無関心、消極的”，と筆者が『本の広場』(2020年7月号)の書評を書いた時点からまだ一年も経っていないのに、今は、LGBTではなく、LGBTQとQuestioning(クエスチョニング自分の性別や性的指向をハッキリと決められなかったり、迷ったりしている人、または決めたくない、決めないとして)が加わっている。

³ 石井四郎(関東防疫給水部部長=731部隊長):京都帝大医学部を首席で卒業、京都帝大総長。田部井和(チフス研究班):京都大学細菌学教授、兵庫県立医科大学教授、吉村寿人(凍傷研究班):京都府立医科大学学長、日本学術会議南極特別委員、生気象学会会長、戸田正三(京都帝国大学教授):南極特別委員、金沢大学学長など。『医学者たちの組織犯罪』関東軍第七三一部隊常石敬一 朝日文庫 1999年 205-216頁。『NHK』(2017年8月13日)。オンデマンド <https://www.nhk-ondemand.jp/goods/G2017080847SA000/>

目次

(1) 人権を軽んじるな	
a. 聖書の公正	2
b. 裁きを曲げる	3
c. 寄留者とは難民	3
(2) 共苦	
a. 増加を続ける強制移動	4]
b. 中東の実態	5
c. 日本政府の非人道	6
(3) キリスト教会の鉄面皮	
a. 難民救済より自分達の救霊	7
b. 地上の地獄	8
c. 人道支援は政治に左右されるべきではない	9

(1) 人権を軽んじるな

a. 聖書の公正

性的虐待を受けている被害者の訴えに耳を傾け、彼、彼女の権利を取り上げるべきである。法律を司る判事、弁護士、法務省は弱い者の人権を守らない。「彼らは弱い者の訴えを退け 私の民の苦しむ者から権利を奪う。寡婦を餌食とし、孤児を獲物とする」における「権利」מִשְׁפָּט [ミシュパト *mshphu* <公正 justice の意>] である(イザヤ 10:2)。「あなたは貧しい者の訴訟において、裁き[ミシュパト]を曲げてはならない」の「訴訟」は ヘブライ語 רִיב リーブ *rib* である(出エジプト 23:6)。リーブは幼い子ども、シングルマザー、難民の訴えを退けず、「(権利を)弁護する」、「(困難、不幸)に対処する、取り組む、戦う」ことさえ辞さない。社会的弱者、抑圧されている者、差別に対して戦うことも示唆されている(詩編 74:22)。

主題聖句の「公正を追い求め、虐げられた者を救い 孤児のために裁き、寡婦を弁護せよ」の「公正」はヘブライ語で、ミシュパトである。日本学士院会員である関根正雄[1912-2000]は、ミシュパトを「権利」と訳出している。旧約の日本語訳『関根訳』は学術的に最も信頼されている。「ヤハヴェは救いのわざを働かせ、すべての虐げる者の権利[ミシュパト]を回復される」(詩篇 103:6『関根訳』⁴)。神は人権について、抑圧から解放へと「低きに下って御覧になる方」であることは言うまでもない(詩編 113:6)。

ミシュパトの定義は「政府の法的な機能が作動し、無機能でないこと」である。語源は שָׁפַט シャーパト *shph* (動詞 治める、支配する)に由来する⁵。聖書考古学者アーネスト・ライトは、「ヤハウェが義であるのは、ヤハウェが民の『権利』のために彼らを助けるからである」、と述べている⁶。

⁴ 拙論「死んでいるお前が社会の変革に加わるか」(神戸新聞会館聖書のことばシリーズ第 83 回 2021 年 5 月 31 日); 創世記 18:25, イザヤ 40:14, エレミヤ 7:5, アモス 5:15, ミカ 3:1,8,9; 6:8, ハバクク 1:4, ゼパニヤ 3:5, 詩編 25:9。「権利」と訳出箇所: I サムエル 8:9,11;10:25, イザヤ 10:2, エレミヤ 32:7,8。

⁵ 『旧約の神学的単語集』 Vol 2 (“Theological Wordbook of the Old Testament” Harris Robert Laird The Moody Bible Institute 1988 948 頁。

⁶ 『旧約聖書神学入門』(アーネスト・ライト 新屋徳治訳 聖文舎 1971 年 65 頁)。

b. 裁きを曲げる

「あなたは貧しい者の訴訟において、裁きを曲げてはならない」、とミシュパトを曲げることのないように聖書は繰り返言及している(出エジプト 23:6)。性犯罪などが無罪になるようなことがしばしばある。すなわち「長たちは反逆者となり 盗人の仲間となっている。彼らは皆、賄賂を好み、贈り物を要求する。孤児のために裁かず 寡婦の訴えは彼らのところまで届かない」、と(イザヤ 1:23)。日本のある裁判長は無罪を連発して、有名になった事実がある⁷。余録として、この裁判長は、2017年6月27日、大阪高裁で覚せい剤取締法違反の罪に問われた男の控訴審判決で、「控訴を棄却する」と言うべきところを「原判決を破棄する」と述べたりした。両隣の裁判官から指摘され、判決を言い直した⁸。政・官・財・学がゆるんでいるとしか言いようがない。民には無用なゴミの分別など細目を守らせようと徹底している姿勢からは想像できない偽善であろう。「彼らの行いは、見習ってはならない。言うだけで、実行しないからである」(マタイ 23:3)。有言不実行がまかり通っている。無能な「お上(かみ)」とは異なり、不当な抑圧からの救出に、神は決して隠れてはいない。「主は士師たち(シャーパト)を立てて、彼らを略奪者の手から救い出された」、と介入した(士師 2:16)。「士師」へブライ語名詞形 **שֹׁפֵט** *shpht* シェペトを用いて訴訟、紛争、不和を解決してきた⁹。キリスト教会用語である「裁いてはいけない」は、非聖書的とも言えよう。「うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁き(ギリシア語 **δικαίαν κρίσιν** ディカイアン・クリス *dikaian krisin*)をなさい」(ヨハネ 7:24, IIコリント 5:12,6:3)¹⁰。

c. 寄留者とは難民

「寄留者を虐待してはならない。抑圧してはならない。あなたがたもエジプトの地で寄留者だったからである。いかなる寡婦も孤児も苦しめてはならない。あなたが彼らをひどく苦しめ、彼らが私にしきりに叫ぶなら、私は必ずその叫びを聞く。私の怒りは燃え上がり、あなたがたを剣で殺す。あなたがたの妻は寡婦となり、子どもは孤児となる。あなたのところにいる私の民、貧しい者たちに金を貸すときは、彼に対して高利貸しのようにしてはならない。彼から利息を取ってはならない。もしあなたの隣人の上着を質に取るようなことがあっても、日が沈むまでに彼に返さなければならぬ。それは彼のただ一つの服、肌を覆う上着だからである。彼はほかに何を着て寝ることができるだろうか。彼が私に向かって叫ぶとき、私はそれを聞き入れる。私は憐れみ深いからである」(出エジプト 22:20-26 『口語訳』、『新改訳 2017』は 22:21-27)。

聖書は、「寄留者」(へブライ語 **גֵּר** ゲル *ger*, ギリシア語 **παροικος** パロイコス *paroikos*)についてもないがしるにしないように一貫して言及している¹¹。「解放の神学」¹²では、「寄留者」を「難民」と置き換えて、理解している。「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束のものは手にしませんでした、はるかにそれを見て喜びの声を上げ、自分たちが地上ではよそ者パロイコスであり、滞在者 **παρεπίδημος** *parepidemous*(パレピデエイモス)であることを告白したのです」(へブライ 11:13)。「愛する人たち、あなた

⁷ 日本の司法制度のなかで、控訴審での逆転無罪判決は稀だ。2015年度の場合、年間21件に過ぎない。だが福岡伸一郎裁判長[1952-(31期)は、2017年5月18日には業務上横領を無罪(一審では懲役1年6月)、5月11日に覚醒剤密輸を無罪(一審では懲役11年)、4月27日に公然わいせつを無罪(一審では懲役1年)と、ほぼ週一回のペースで逆転無罪判決を出している。『判例タイムズ』1440号11月号(判例タイムズ社2017年10月25日)。

⁸ 『毎日新聞』(2017年6月28日付)。

⁹ 「士師記」は中国古代の裁判官を意味する士師に由来(『新カトリック大事典II』『新カトリック大事典編纂委員会 研究社1998年1194頁)。士師の時代はヨシュアの死からサムエルまでの期間、民どうしの衝突や紛争、訴えなどの仲裁、裁きなどの働きを担った。拙論『マナ』誌2013年10月号いのちのことば社27頁。http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2013/11/d5e458c7968ae6d0acd22fc3fb000053.pdf

¹⁰ 拙論(同65頁)。「さばいてはいけません」(マタイ7:1,ルカ6:37)というみことばは、私たちの思いに刻みこまれてる。指導者の不正などに対しても信者は口をつむぐように1500年近くマインドコントロールされてきた。

http://kicc.sub.jp/wp-content/uploads/2013/11/d5e458c7968ae6d0acd22fc3fb000053.pdf

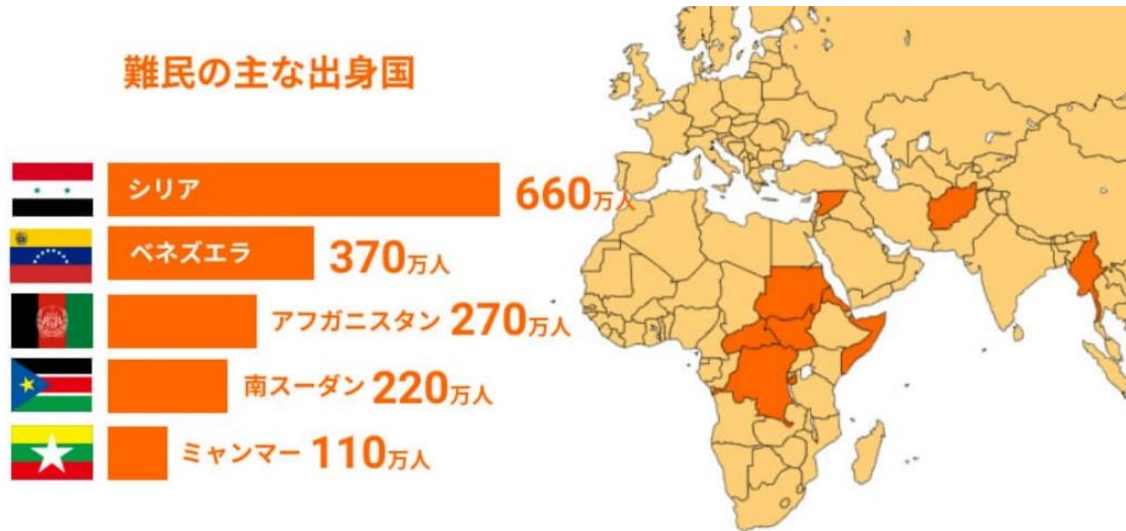
¹¹ 『セプトゥアギンタ訳』LXXの出エジプト記22章20節では、**προσήλυτος** プロセールトス<改宗者の意 語源は**προσέρχουμαι** プロセルコマイ「よそからここへやって来た」>であり、ユダヤ人ではなかったが、割礼を受け、ユダヤ教徒になった者について述べている。英語 *proselyte* 「改宗者」の原義。

¹² 拙論『解放の神学とは何か』(神戸国際キリスト教会2021年5月2日)。

がたに勧めます。あなたがたはこの世では寄留者(パロイコス)であり、滞在者(パレピデエイモス)なの
 ですから、魂に戦いを挑む肉の欲を避けなさい」(I ペトロ 2:11)。したがって、限界集落の人々、抑圧
 された人々、被災のトラウマをもつフィールドにかけつけるボランティアも「寄留者」である。

(2) 共苦 Share sufferings

a. 増加を続ける強制移動



世界の強制移動の数は9年連続で増加。現在、地球上の1%が強制移動に直面。全体数が4,000万人以下だった2011年の約2倍になった。世界の難民の大多数、約10人に9人は、自らも危機に直面する近隣地域、低中所得国で受け入れられている。開発の遅れている後発開発途上国は庇護の受け入れ全体の27%を占めている。

紛争や迫害によって移動を強いられた人 (8,240万人の内訳)

難民 2,640万人 (UNHCR 支援対象者 2,070万人 + UNRWA 国連パレスチナ難民救済事業機関 支援対象パレスチナ難民 570万人)

国内避難民 4,800万人

庇護希望者 410万人

ベネズエラ国外に逃れた人 390万人¹³

強制移動受け入れ国

1. トルコ 370万人
2. コロンビア 170万人
3. パキスタン 140万人 ウガンダ 140万人
4. ドイツ 120万人

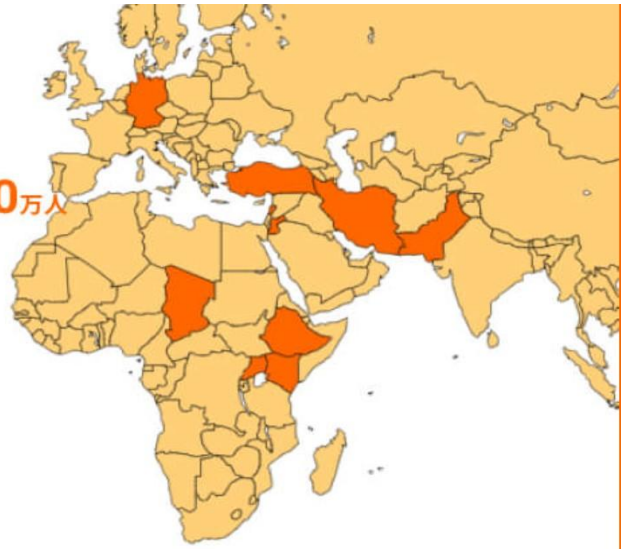
難民の出身国 全体の3分の2以上、68%が5カ国に集中

1. シリア 670万人
2. ベネズエラ 400万人
3. アフガニスタン 260万人
4. 南スーダン 220万人
5. ミャンマー 110万人

近隣国への避難 73% 18歳未満の子ども 42%

¹³ UNHCR 2016年資料。

難民の主な受入れ国



※2018年～2020年で難民として生まれた子どもは約100万人(年間平均29万～34万人)
無国籍者 数百万人

※94カ国の政府、他機関の集計に基づいた2020年末時点の無国籍者の数は420万人。しかし、多くの国で無国籍者に関するデータがないため、実際数はさらに多いと推測される。¹⁴
世界で紛争や迫害のために故郷を追われた人々が、2020年には8,000万人を超えた。コロナ禍においても減ることのない難民。

b. 中東の実態

神戸国際支縁機構は、最も人道上被害の大きいシリア難民のために2018年から足を運んでいる。とはいえ何も成果らしきものはない。東日本大震災が起きた同年2011年に、シリアの悲劇は始まった。翌年の2012年8月3日、世界宗教者平和会議WCRP(World Conference of Religions for Peace)に出席した。そこでマー・グレゴリオス・イブラヒム(シリア正教アレppo大主教 Gregorios Yohanna Ibrahim the Syriac Orthodox Archbishop of Aleppo)氏と再会。2006年第8回世界宗教者平和会議以来であった。イブラヒム氏と共にシリアの紛争の終結を祈った。ところが、帰国したイブラヒム氏からの連絡は途絶えた。日本の災害、津波、地震による被害だけでも手に負えるはたらきではない。しかも日本人が限りなく訪問の機会が狭められているシリアに出かけて行って安否を確かめることすらできない。放っておくしかないのか。己れの方の及ぶ範囲を超えている。制限が多すぎた。2017年12月28日、レバノンのベイルートから米、文房具、支縁物資をもってシリア難民キャンプに潜入した。イブラヒムの写真を見せて、なんらかの手がかりを得ようと出会うシリア人ごとに尋ねた。外務省の渡航先として危険区域であった。いくつもの難民キャンプでイスラエル空軍、米軍の砲撃で親を失った孤児たちに囲まれた。国連からの支縁もない。子どもたちは生きていく術もない。「孤児たちが難民として呻いている。『あなたがたはいつまで不正に裁き 悪しき者におもねるのか。弱い人やみなしごのために裁き 苦しむ人や乏しい人を義とせよ。弱い人や貧しい人を救い 悪しき者の手から助け出せ』、と聖書は指摘している(詩編 82:2-4)。



マリッシュ 2017年12月30日

¹⁴ UNHCR 2016年資料。

2018年(平成30年)2月23日

内戦のシリアに孤児院を

神戸の支援団体 救援金募る



国内の被災地の支援活動が続く神戸支援団体の「シリア孤児院」が、内戦で被害を受けたシリアの孤児院に支援物資を届ける。支援物資を届けるシリアの孤児院。支援物資を届けるシリアの孤児院。支援物資を届けるシリアの孤児院。

シリアは2011年以降から集まった約100人

2018年(平成30年)5月3日(木曜日)

シリア遺児 見過ごせぬ

神戸国際支援機構



シリア内戦で犠牲になった子どもたちを支援する神戸国際支援機構が、シリアに滞在する孤児院に支援物資を届ける。支援物資を届けるシリアの孤児院。支援物資を届けるシリアの孤児院。

シリア難民に関心を

神戸の団体が報告会 開



シリア内戦で犠牲になった子どもたちを支援する神戸国際支援機構が、シリアに滞在する孤児院に支援物資を届ける。支援物資を届けるシリアの孤児院。支援物資を届けるシリアの孤児院。

現地に養護施設建設へ

シリア内戦で犠牲になった子どもたちを支援する神戸国際支援機構が、シリアに滞在する孤児院に支援物資を届ける。支援物資を届けるシリアの孤児院。支援物資を届けるシリアの孤児院。

c. 日本政府の非人道

日本政府は狭量である。最高裁は1978年の判決で「国際慣習法上、外国人を自国内に受け入れるか、受け入れる場合にいかなる条件を付するかは、国家が自由に決定できる」と日本の入管当局にお墨付きを与えた。

2021年6月18日、UNHCRは6月20日の「世界難民の日」に向けて2020年の世界の難民数を発表した¹⁵。昨年、紛争、迫害、暴力、人権侵害などにより故郷を追われた人の数は、コロナ禍にも関わらず、8,240万人近くまで増加。2019年の7,950万人より4%、290万人増である。庇護申請中で結果を待つ庇護希望者は世界全体で2019年とほぼ横ばい(410万人)。一方、庇護申請の登録数約130万人は2019年から43%、100万人減¹⁶。

日本は難民条約の加盟国であるにもかかわらず、難民の認定率はほぼ1%にも満たないできた。2019年の難民認定申請者10,375人に対して、認定された人は44人(0.4%)。2020年はコロナ禍の影響で3,936人と庇護申請者は大幅に減った。認定された人は47人(1.2%)。条約批准国148カ国中110位であり、条約批准国の責務を軽んじている。長期収容、長期仮放免、強制帰国は人権蹂躪である。たとえば、難民認定申請を同じ理由で3回以上繰り返した場合、強制送還にする日本政府に対して、UNHCRは「非常に重大な懸念」を表明した¹⁷。しかし、難民認定率の低さが際立っている問題は解決されず、私たちは次々に「不認定」になっていく難民への支援に関心になっているのではないだろうか。また、今後、増大するであろうミャンマー(ビルマ)難民への対応を注視していく必要がある。

¹⁵ 国連高等難民弁務官事務所 The Office of the United Nations High Commissioner for Refugees の略称。通称はユーエヌエッチシーアール、アフリカの難民はアンカーと呼ぶ。1950年12月14日に設立。緒方貞子[1927-2019]は、日本人初の第8代国連難民高等弁務官(1990-2000)、アフガニスタン支援政府特別代表。ローマ・カトリック教徒。指導教員はアジアの政治・国際関係のロバート・スカラピーノ。
¹⁶ 年間統計報告書「グローバルトレンドズ・レポート」
¹⁷ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の見解(出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律案[第204回国会提出。2021年4月9日付け)。

(3) キリスト教会の鉄面皮

a. 難民救済より自分達の救霊

キリスト教会はスペイン風邪[1917-1920]¹⁸が日本を席卷したとき、何を発信しただろうか。当時、日本を代表する内村鑑三[1861-1930]もスペイン風邪の犠牲者に対するケアを語っただろうか。むしろ中田重治[1870-1939]¹⁹と同じように、再臨²⁰が近いと祈り、パンデミック(世界的大流行 ギリシア語のパン“全ての”+デモス“人々”)の最中に会堂をいっぱいにしていただろうか。伝道を強調する群れは、キリストの再臨が近いと聖会、特別講演会、伝道集会を開いている。ディスパニセーションを信じる牧師仲間は今にもキリストの再臨があると宣明する²¹。伝道し、再臨に備える救霊を優先し、病死や死の陰をさまよう日本人のケアについて教会としてなんら寄り添ってはいなかった。コロナ禍の今、教会は死に怯えるひとたちにどのように寄り添っているだろうか。明治になり、海外からキリスト教宣教師がやってきた。維新政府の中央に登用されない地方の元サムライたちにとり、魅力的な教えに映った。内村は、「世界は畢竟^{ひっきよう}基督教によりて救はるのである。而かも武士道の上に接木せられたる基督教に由りて救はれるのである」と喝破した²²。内村、新渡戸稲造[1862-1933]と並ぶ元サムライ植村正久牧師もサムライにキリスト教が接ぎ木されたと教えた。「我輩の教会に車夫、職工の類はいらない。」「吾らは武士の長所を携へて、天地の主、救世の君を奉じ、十字架の精神に之を接木せんと欲するものなり」と²³。

サムライではなく、民衆にキリスト教が接ぎ木されなかったことは、日本のキリスト教史の致命傷であろう。

西暦1世紀、キリストを囲み、従っていたのは名もない民「人々がイエスのところへ、いろいろな病氣や痛みを苦しむ者、悪霊に取りつかれた者、発作に悩む者、体の麻痺した者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々を癒された」(マタイ 4:24)。

民衆 **ὄχλος** オクロス(民)は、生産に従事しえない者、病気の者、知的身体的に障がいを持つ者、故郷を追われた放浪者たち、つまり「棄てられた者」、物乞いして歩くしかないアウトカーストだった。

しかし、コンスタンティヌス帝[コンスタンティヌス1世 280頃-337年]がミラノの勅令(西暦313年)を出し、キリストの道は公認され、392年にテオドシウス帝によってローマ帝国の国教になった。キリスト教は病人、婦女子、孤児、娼婦、流れ者—社会の底辺の階級の人びとに無関心、無責任、抑圧にとどまらなかった。教導権をもつ教会の権威者は裕福な層を厚遇する宗教エリート帝国を築いた。

聖職者は、講壇から語る。キリストをメシア、王として歓呼して迎えた群衆を引き合いに出す。「その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに來られると聞き、なつめやしの枝を持って

¹⁸ 世界人口の3割近い5億人が感染、5千万~2千万人が死亡(WHO)。世界の3人に一人が感染した推計。患者計23,804,672人 死者388,727人(内務省衛生局)。

¹⁹ 中田重治は「おいでを早めるため」の見出しで、強調した。「ひとりでも多く救われるならば、それだけイエスさまのおいでが近づいて来るわけになる。『中田重治全集』第1巻(米田 勇 いのちのことば社 1973年 478頁)。「流行性感冒猖獗を極め、とスペイン風邪が日本列島を席卷している時にさえ、内村鑑三は「基督再臨と伝道」と3密(3つの密) 密閉、密集、密接を避けるどころか、次々と講演会などを開催。『内村鑑三全集』33(内村鑑三 岩波書店 1983年 31,37頁)。

²⁰ 再臨とは、キリストが再び戻って神の支配を達成する終末論。拙論で筆者は「キリストの死と復活はD-デイであり、再臨と最後の審判はV-デイのようなものである」と、ノルマンディ上陸作戦にたとえて神の現実性と未来性について述べた。拙論『福音主義神学』終末論 2000年 127-128頁。 http://www.evangelical-theology.jp/jets-hp/jets/paper_in_printable/031-5_in_printable.pdf

²¹ 同(岡山英雄 37頁)。ディスパニセーションの神学は19世紀半ば、イギリスのJ・ダービーらによって唱えられ、20世紀にアメリカでファンダメンタリズム運動と結びついて急速に広まった。……特殊な終末論、とりわけ「患難機期前携挙説」である。教会とイスラエルを峻別して、患難期に、教会は携挙されて天にあり、イスラエルは地上に残されるとする。拙論『パレスチナの悲劇に無関心であってよいのか』(エラスムス平和研究所 2021年5月16日 1-2頁)。

²² 『日本基督教団史資料集』第2巻 戦時下の日本基督教団(1941年~1945年) 日本基督教団宣教研究所 1998年 322頁)。

²³ 『福音新報』(植村正久 日本基督教会 1894[明治27]年)、『内村鑑三全集』22(内村鑑三 岩波書店 1982年 161-162頁)、『メイド・インジャパンのキリスト教』(マーク・R・マリンズ 高崎恵訳 トランスビュー 2005年 87頁)、『土着と背教』(武田清子 新教出版社 1967年 11-14頁)。武田は、内村たちが日本精神史の遺産にキリスト教を根付かせようとする問題意識が弱い、と指摘している。

迎えに出た。そして、叫び続けた。『ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるようにイスラエルの王に。』とオクロスの熱狂を注解する(ヨハネ 12:12,13)。続いて、「しかし、人々は一斉に、『その男は連れて行け。バラバを釈放しろ』と叫んだ……『十字架につけろ、十字架につけろ』と叫び続けた。……人々は、イエスを十字架につけるように大声で叫んでやまなかった。そしてついに、その声がまさった」とオクロスの気ままな信用ならない変節を語ってきた(ルカ 23:18,21,27)。だから、指導者の声に従順であることを繰り返し強調してきた。しかし、オクロスは波のように定まらない民なのだろうか。

およそ1500年間、教会では「イエス・キリストをあなた方が殺した」と繰り返し、オクロスに転嫁してきた。聖書は陰謀を証明する。「夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、イエスを殺すために協議した」と宗教指導者が陰謀を企てる記録がある(マタイ 27:1)。「しかし、祭司長たちや長老たちは、バラバを釈放して、イエスを死刑に処してもらおうようにと群衆を説得した(ペイソー)」の「説得する」(ギリシア語 *πειθω* ペイソー *peitho* <「説き伏せる, 確信をいだかせる. おだてて~させる」の意>と記されているようにオクロスをそそのかしていた(マタイ 27:20)。十字架刑の時、聖職者たちは率先して、叫んでいる。「祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、『十字架につけろ、十字架につけろ』と叫んだ」(ヨハネ 19:6)。したがって、イエスを「十字架につけろ」と言わせた黒幕を見抜く円熟した理解力が求められよう(ヘブライ 5:11)。

聖書は聖書によって釈義することが肝要であろう。つまりコロナ禍、難民、不平等にあつて、神について伝道することではない。神がオクロスについて何と語っているのか謙虚に耳を傾けるべきである²⁴。

b. 地上の地獄 — パレスチナ難民

中東については、アサド政権が悪い、というメディアの鵜呑みの一辺倒であろう²⁵。テレビの雑学を繰り返し刷り込まれている現代人は「在来のあるものの見方に対して、いや事実はそのようなものではないものとして、現にこのようにあるのだ」という否定の手法が麻痺している²⁶。画像がなければ認識できない人間は限界集落が見えない。自然災害か人災か問題の本質を見極めようとしなない。すなわち、大江健三郎が『小説の方法』の中で述べている「異化」²⁷の発露が退化している。次から次へ押し寄せるランダムな情報洪水に翻弄されている。たとえば孤児たちの呻きは千年王国で解決できると盲信し、教会などでも祈りの課題にもならない。救済より救霊が教会を支配していよう。日本だけでなく、ヒトラー下であったドイツのキリスト教会も自分達がキリストの十字架で罪から解放されたらよしとしてきた²⁸。

独裁政治から民主政治に移行して、体制は変わったと言えるだろうか。

「罪」とは何か、出エジプト記以来、民衆を抑圧する構造悪のことではないのか。働くことさえできない、統合失調症、ハンセン病(らい病)者、ハンディキャップある障がい者は疎外されてはいまいか。資格、力、富とは無縁の底点にある人々は物乞いすらできない。住居、食事、衣服もままならぬ。一方、聖職者は、

²⁴ Karl Barth *Der Römerbrief*, München 1922. バルトは『ローマ書講解』第二版の序文で語る。「事柄(ザツヘ)との取り組み」を捉え、「歴史的なものを透視して、永遠の精神である聖書の精神を洞察すること」であつて、人間の側からは感情や直観では把握できない。聖書こそ神の声を聞く唯一の方法だと論じた。

²⁵ 「ホロコーストは真実か、虚構か」を争う映画が2018年1月日本でも上映された。予告編を拝見して、筆者は、1月25日付けのフェイスブックで下記を発信。“日本でも「南京大虐殺」「百人斬り競争」を否定するメディア、否定した東中野修道教授の偽証が証明された。最高裁は、東中野教授と出版社に計400万円もの支払いを命じた。世界の常識と、日本人だけの茶の間の常識—「南京大虐殺の否定」。日本軍「慰安婦」否定。戦前、戦時下強制連行否定はかけ離れていることをかみしめたい”。

²⁶ 『小説の方法』(大江健三郎 岩波書店 1994年8頁)。

²⁷ 『ドストエフスキー論—肯定と否定』(ヴィクトル・シクロフスキー 水野忠夫訳 勁草書房 1966年305頁)。

²⁸ 拙論『旧約の罪とは霊的な罪なのか』(神戸国際キリスト教会 日曜メッセージ 2021年3月21日)。

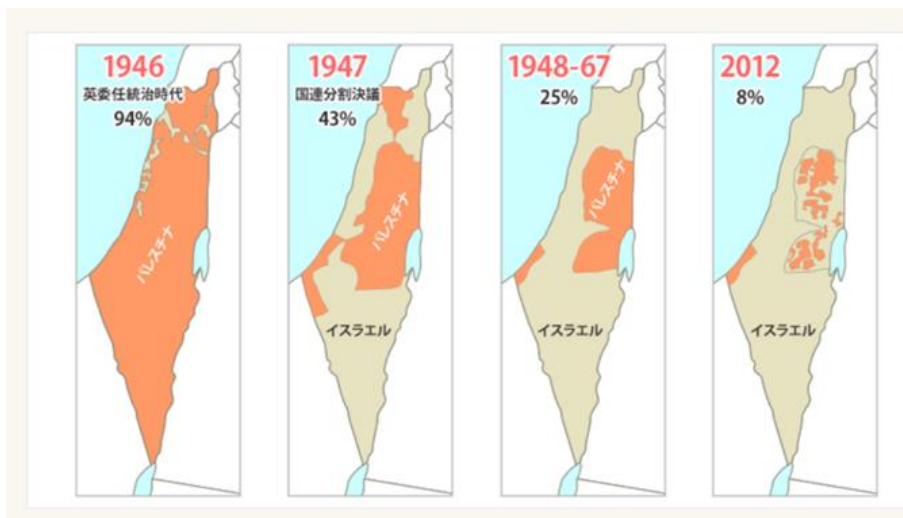
教会の講壇から語る。罪赦され、永遠の命をもらった信者は、恵みに感謝せよと題目のように唱えさせる。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」(Iテサロニケ 5:16-18)。「私は若者であったときも、年老いた今も正しき者が捨てられ その子孫がパンを乞うのを見たことがない」と繰り返し信者だけの特権を慰撫してきた(詩編 37:25)。

2018年9月4日、シリア人のセンターでアレッポ育ちのバアーさん(28歳)、レイラさん(25歳)とその娘マリアさん(3歳)からアレッポに於ける孤児の施設建設の情報を話し合う。シリア人、パレスチナ人、レバノン人と会食をしながら人権がないがしろにされている問題について論じ合う。レバノンにおいては、シリア人は二流市民、パレスチナ人にいたってはイスラエルの強硬な姿勢により、教育、就職、医療は人間を相手にするものとなっていない。パレスチナ人の多くは歴史的に、四世紀頃、地中海沿岸にできたキリスト教会よりずっと前からキリスト者(アラブ・オーソドックス)であったにもかかわらず、「穢れ」た市民として見下されている。



c.人道支援は政治に左右されるべきではない

日本のコロナ禍、台風、豪雨の報道は綿密になされるが、パレスチナ人地区の実態について日本のメディアが顧みることほとんどない。既に報道された内容でも自分の足で丹念に掘り起こしていくと新たな意味を持つ。たとえば、中東のパリと称されるレバノン国ベイルートは近代的な都市である。そこにも光と闇がある。パレスチナ人居住地域の教育、福祉、就職はおぼつかない。警察もいなければ、治安についてもパレスチ



ナ人自身が対応するしかない。完全に見棄てられた居住区。70 年以上にもおよぶが、大国は黙殺している²⁹。

社会学者村田充八は言う。「宗教的指導者は、どのような宗教においても、平和や正義を願う為政者や信徒を社会に送り出す努力をすべきである。パレスチナにおいても、ムスリム、イスラーム教徒とユダヤ教徒が共存していた時代があったとされる。それは、おそらく、一つには、当時の宗教的指導者や為政者が、暴力に訴えることを望まず、『対話』をとおして問題を処理し、宗教の真理に聞こうとする態度を貫いたからではないか」と³⁰。

パレスチナ人の生活をよくしようと世話をしていたベイルートのハズィネさん(49 歳)も 2 年前に狙撃されて亡くなった。残された 12 歳のハディ君に 2018 年会ったが将来には希望がない。親を殺され、学校にも行けなくなり、ちゃんと仕事もないパレスチナ人。ワクチンの整ったイスラエル、アメリカ、大国にパレスチナ人が刃向かう動機について理解できる日本人がいるだろうか。単純に、「イスラーム教徒＝テロ」、シリアのアサド政権は悪³¹、パレスチナ・テロは人類の敵の図式だけでは世界は見えてこない。

パレスチナが公正を獲得できる場に解放される日の到来を見るまでは死ねない。なぜなら「多くの人の身代金として自分の命を捧げるために来たのである」に、「自分の命を捧げる」と述べたキリストと向きあっていると「仕える」ということの本質が研ぎすまされ浮かび上がってくるからである(マルコ 10:45)。神に仕えようとする者は、難民の側に立たねばならない。

<結論>

差別、社会的不平等、抑圧を容認することは、ある意味で、ヒエラルキーで恩恵を受けている側に立つことを意味している。フクシマから故郷を追い出された原発難民、性的虐待で共食を味わえない家族難民、大国のエゴによって 70 年以上にわたりふるさとに戻れないパレスチナ難民に安らぎは来ていない。「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にする」の「自由にする」(ギリシア語 ἐλευθερώ エリュエセロー *eleutheroo* <「解放する」の意> 旗印を掲げよう(ヨハネ 8:32)。

平安をもたらす戦いの勇士を募集中である。訓練は、被災地での呻きを聞くことから始まっている。

説教原稿を翌週、神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました事務局の翻訳家徳留由美氏、佐々木美和氏にも感謝します。

²⁹ 拙論「人類史 最大の人道悲劇—第 2 次シリア・ボランティア報告」(2018 年 5-7 頁)。

³⁰ 『戦争と聖書の平和』(村田充八 見洋書房 2018 年 201-202 頁)。

³¹ 拙論「人道史上人類歴史最大の悲劇—第 2 次シリア・ボランティア報告」(エラスムス平和研究所 2018 年 2 月 17 日 5-7 頁)。「シリアはアラブの春に逆行し、アサド政権がサリンなど化学兵器を用いているという米国の宣伝によって、アサドが自国民をジェノサイド[集団殺害]しているかのように、日本の多くの識者は受けて止めています。欧米メディアでは、アサド政権が「悪魔の独裁政権」「残虐な殺人政権」のような一方的な報道をしています。しかし、私たちが出会ったシリア人はアサド政権を支持している人たちが多かったことは事実です。反政府勢力の方がむしろ孤立している印象をもちました。(本文「アサド政権が諸悪の元凶なのか」から抜粋。出典: 9) 『テレビ・新聞が決して報道しないシリアの真実』(国枝昌樹 朝日文庫 2016 年 14-15 頁)。10) 『職場観光～シリアで最も有名な日本人』(藤本敏文 幻冬舎 2015 年 276 頁)。11) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(同 113 頁)。12) 『日本経済新聞』(2018 年 2 月 10 日付)。13) 『イスラムを知らないと世界が見えない』(佐々木良昭 囀囀社出版 1987 年 67 頁)。14) 『レバノンから見たアラブの苦悩 アメリカの不正義』(同 108 頁)。15) (同 116 頁)。16) 『中東特派員はシリアで何を見たか』(津村一史 dZERO 2015 年 85-86 頁)。17) 『政府は必ず嘘をつく』(堤未果 角川マガジズ 2012 年 19 頁)。